

分野	授業科目名	単元名	単位数	時間数	履修時期	担当教師
専門分野Ⅰ 基礎看護学	診療の補助技術Ⅱ	症状、生体機能管理および機能を整える技術	1	30	2年次後期	高野 佳子
テキスト(発行所)		看護技術がみえる vol. 1,2 臨床看護技術 (メディックメディア) 看護技術プラクティス 第3版 監修 竹尾 恵子 (学研)				
テキスト以外の教材、参考図書		主題に応じて、適宜テキストを提示します。準備してください。				
学習のねらい	対象の身体症状を観察し、症状を緩和するための援助技術を学ぶ					
学習目標	1. 身体症状に応じた、基本的な看護援助技術や対処方法を習得する。 2. 医療機器・器具の原理を理解し、安全に取り扱うための方法を習得する。 3. 援助や検査時の看護の役割について理解する。					
学習スケジュール						
回数	主題	学習内容	履修形態 他			
1回	「診療補助技術Ⅱ」で学ぶこと 呼吸を楽にする技術 ①酸素吸入療法 ・パルスオキシメーター	・講義概要 ・酸素吸入療法の原則と仕組み ・酸素流量計の取り扱い	講義 デモスト 実習室			
2回	呼吸を楽にする技術 ②酸素ボンベによる酸素吸入療法	・酸素ボンベの取り扱い ・気道分泌の排出の援助	講義 デモスト 実習室			
3回	呼吸を楽にする技術 ③吸引(一時的吸引法)	・(口腔・鼻腔・気管)吸引の手順 ・吸引器の仕組みと構造	講義 デモスト 実習室			
4・5回	呼吸を楽にする技術 ・呼吸を楽にする技術の総合演習	・酸素療法 ・補助排痰法 ・口・鼻腔吸引、気管吸引 ・ポートフォリオ学習会 テーマ①	総合演習 ※後述 実習室			
6回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術 ・検査とは ・検体検査(尿・便・喀痰) ・穿刺	・検体とは・検体の取り扱い方 ・尿、便、喀痰検体の採取方法 ・腰椎穿刺、胸腔穿刺、腹腔穿刺、 骨髄穿刺	講義			
7・8回	排泄の援助技術(器具を用いた) ①浣腸 ②導尿 ③膀胱留置カテーテル	・排泄の援助器具の種類 ・各器具の目的、特徴・援助の方法 ・ポートフォリオ学習 テーマ②	講義 デモスト 実習室			
9回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術 ME機器の使用と看護① ・輸液ポンプ ・シリンジポンプ	・ME機器の基礎的知識 ・機器使用の目的、操作、点検 ・機器使用中の看護	講義・演習 実習室か病院			
10回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術 ME機器の使用と看護② ・心電図モニター ・12誘導心電図	・心電図モニター・12誘導心電図 目的、操作・点検・取扱い ・12誘導心電図の手順と看護	講義・演習 デモスト 実習室か病院			
11回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術 採血① 真空管採血による採取方法と手順 注射器採血による採取方法と手順	・採血の目的 ・採血の部位 ・採血方法 ・真空管と注射器の違い	講義			
12回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術 採血② 真空管採血による採取方法と手順 注射器採血による採取方法と手順	・採血の手順と看護 ・血液検体の取り扱い方	講義・演習 デモスト 実習室			
13・14回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術 ・採血の技術演習	(詳細は、後日説明します。) ・ポートフォリオ学習会 テーマ③	演習 実習室			
15回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術 ・検査時の看護 安楽を促すための技術	・主要な検査に対する事前処置の 方法や看護の役割 ・電法	講義 実習室			

単位認定の方法	1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること 2. 評価の割合 1) 筆記試験 … 75点 2) パフォーマンス課題…25点
受講上のアドバイス	<p>本科目では、症状の観察や症状の緩和のために、様々な医療機器や器具を用いて援助する方法を学びます。これらは、看護活動において日常よく実施されるものばかりです。医療の現場では、医療機器も日々進化し、操作も容易になっていますが、看護で求められる技術は、それら機器が示す情報をどのように読み取り、必要な機器や器具を選択し、適切に使用できるようになることです。</p> <p>講義では、出来る限り様々な機器や器具に触れてもらいます。その分、必要な知識や関連学習は自分で調べて、自己学習していくことが求められます。ポートフォリオに自己学習や演習での経験を蓄積して、充実した内容を完成させてください。臨地ではさらに応用力が求められますので、講義で培った知識や蓄積したポートフォリオを活用させて、技術力を向上させてほしいと思います。</p>